

# CMCにおいて親密な人と初期関係の人に抱く印象の違いに関する研究

1230437 掛水 碧海

指導教員 三船恒裕

## 研究背景

透明性の錯覚は初期関係の相手よりも親密関係の相手のほうが影響は大きいと指摘されている。そして、親密関係の相手との Computer-Mediated-Communication (CMC) において、メッセージ無視が生じると透明性の錯覚の影響によって、実際よりも嫌われていると思い込むとされている。しかし、初期関係の相手との CMC については検討されていない。

## 研究目的

メッセージ無視が生じた状況において、やり取り相手が親密関係の相手より初期関係の相手のほうが、メッセージ無視に対して感じる印象を実際よりも低く見積もる程度が小さくなり、また無視の理由を実際よりも内的に帰属する程度が小さくなるのかを検討する。

## 調査・分析方法

Qualtrics を使用して大学生を対象にシナリオ実験を行った。メッセージ無視に関する印象と理由について因子分析を行った。独立変数が相手との関係性と参加者の立場、従属変数を印象評価とする印象についての分散分析と、従属変数を理由評価とした理由について分散分析を行い、やり取り相手との関係性が親密関係と初期関係において、無視する条件と無視される条件の参加者の無視に対する実際の印象・理由と推測する印象・理由について調べた。

## 分析結果

分散分析の結果、ネガティブ印象と内的理由、状況的理由について、メッセージやり取り相手との関係性と参加者の立場の交互作用は有意ではなく、無視する条件と無視される条件の間に有意な差は見られなかった。ポジティブ印象について、メッセージやり取り相手との関係性と参加者の立場の交互作用が有意であり、親密関係において無視される条件よりも無視する条件のほうがポジティブ印象の評価は低かった。

## 考察・結論

ポジティブ印象の評価については、親密関係でより透明性の錯覚が影響したと考えられる。ネガティブ印象と内的理由の評価については、関係継続のために熟慮した結果、無視する条件と無視される条件の間に差が見られなかったと考えられる。状況的理由については、内的な状態とは関係がないため透明性の錯覚が影響しなかったと考えられる。今後は、多人数条件やその他メディアについての検討が必要である。